

# 社会思想史

科目責任者 竹内高明  
学年・学期 1学年・3学期

一  
学  
年

## I. 前文

2022年2月24日、ロシアによるウクライナの全面侵攻が開始された。現在も消えない戦火の中、ウクライナは甚大な被害を受け、多くの民間人が犠牲となり、原子力発電所が占拠された。国際連合等の安全保障システムが機能しないまま、欧米諸国と日本はそれぞれの対応を行い、また市民レベルでの支援活動も活発に行われている。この事態が世界の中で持つ意味を考え、当事者の声をじかに聴きながら、自らと日本の将来を構想する。

## II. 担当教員

竹内高明 (基本医学)

## III. 一般学習目標

ウクライナとロシア、また両国を取り囲む世界の歴史を通観しつつ、現在起こりつつある事態を把握、その過程で多様な情報を吟味し自らの判断に活かす能力を培う。

## IV. 学修の到達目標

過去の歴史と世界の現況が人々と国家のふるまいにどのように関わるかを理解し、社会と世界の変化の中で自らの指針を保持し、自立した判断と行動ができる。

## V. 授業計画及び方法 \* ( )内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))  
2: ディスカッション, デベート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブラーニング
1	11	1	水	4	侵攻の前史	竹内高明	1, 2
2		8	水	4	日本のNPOによる戦時下のウクライナ支援	竹内高明	1, 2
3		15	水	4	ウクライナの当事者が語る現状	竹内高明	1, 2
4		22	水	4	「人道に対する罪」と「ジェノサイド」	竹内高明	1, 2
5		29	水	4	戦争犯罪と情報操作	竹内高明	1, 2
6	12	6	水	4	ウクライナ侵攻が照らし出す日本の過去と現在	竹内高明	1, 2
7		13	水	5	まとめ・明日の世界をどう築くのか	竹内高明	1, 2

## VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

事前課題の発表 (30%), 出席や授業に対する取り組み (10%), 期末レポート (60%) をあわせて総合的に評価する。

## VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書は特に指示せず、事前学習動画で講義内容を説明し、授業時に資料を配布する。また、必要に応じて参考図書を示し、授業中に視聴覚資料を用いる。

### VIII. 質問への対応方法

講義中に随時受け付けるほか、語学・人文教育部門室（本部棟3階）でも対応可。  
 部門室での質問の場合は、あらかじめ連絡を取ること。  
 竹内連絡先：t-take@dokkyomed.ac.jp

### IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP    ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

### X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題に対しては、授業中、全体及び個別にフィードバックを行う。

### XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間 \*（ ）内は必要な時間の目安

各回の授業前に予習動画を視聴し、事前課題を準備する（20分）。事後学習としては、授業での学びを整理し以降の学習に活かす（20分）。

### XII. コアカリ記号・番号

B-4-1)